

# 2015年度セミナー(東京会場) 研究の技術を磨く講座 講座Ⅰ「情報を読み解く」 受講者レポート

10月に終了した「講座Ⅰ」を受講された方のレポートを掲載します

12月には「講座Ⅱ」、来2月には「講座Ⅲ」を予定しています  
参加希望の方は本ホームページのセミナーのご案内をご覧ください

2015年10月24日(土)25日(日)  
講座Ⅰ 「情報を読み解く」  
講師 今田 敬子 先生  
(国際医療福祉大学:情報教育学 特任教授)



## ◆ 自動車事故対策機構 千葉療護センター 石川 里香 さん

日々の実践での漠然とした疑問や課題を、研究計画に落とし込むことができるようになることを目標に受講しました。

2日間の日程のうち、前半は研究に取り組むための条件や研究の目的についての講義があり、自分の研究課題を明確にすることを指導していただきました。後半は実際にパソコンを操作しながら、自分の研究に役立つ文献検索の演習などを行いました。ご高名な先生の講義ですが、堅苦しい雰囲気ではなく、先生を囲んでお茶やお弁当の時間があり、緊張とリラックスを繰り返しながら、あっという間に2日間が終わりました。

全体を通じて、先生からは研究のゴール（誰の？なんのために？どんなふう役にたつ研究なのか？）を自分の中で明確にすることの大切さを教えていただきました。全国から集まった受講生は、職場から研究発表することが求められている人や、私のようにぼんやりとした課題をどうしたら研究課題まで持っていけるかというレベルの人まで様々でしたが、なにより、講師や事務局の先生方が、ひとりひとりの机を回って、個人的な質問に丁寧に答えてくださり、先生との対話の中で自分の課題に向き合えたことが大きな収穫でした。

この先の講座Ⅱ、Ⅲは、研究方法別に学びを深めていくセミナーだそうです。研究してみたいけれどやり方がよくわからない人や、一人で行き詰っている人には、ぜひおすすめいたします。月曜日からの仕事への意欲がわくような週末のセミナーでした。ありがとうございました。

## ◆北里大学病院 ソーシャルワーク室 市川 賀一 さん

私の受講の動機は、日々の業務を可視化するために何か研究がしたいとは思っていても、何をしてもよいかかわからない、何から始めればよいかかわからない、という思いからでした。受講した後思い返すと、研究の最初の一步目からつまずき、そのまま動けずにいたのだと思います。

今回のセミナーは研究課題の設定から文献検索までの研究に至る手順についての内容であり、まさに“最初の一步の踏み出し方”を教えてくれるような内容でした。

ソーシャルワーカーの研究の難しさは研究課題設定の難しさにあると思います。ソーシャルワーカーが扱う業務は複数の要素が複雑に影響しあっていることから、研究対象の幅が広く、また複雑であるためです。例えば私自身は「何か退院支援についての研究をしたい」と思っても、退院支援にはソーシャルハイリスク、患者家族の心理的要素、病状、紹介状作成にかかる時間、制度など様々な要素が影響するために手が付けられなくなってしまい研究に踏み出せないような状態だったのだと思います。

今回の講座で学んだ“最初の一步の踏み出し方”は、課題の焦点化にあります。課題の焦点化とは“自分が何に課題・問題意識を感じているのか”という自問自答により動機を明確にすることです。例えば、先ほどの例でいえば、「退院支援の何に問題意識・興味を持っているのかという動機」を明確にすることです。それを理解していれば、ソーシャルハイリスクについて研究したのか、退院支援に関わる心理的要素について研究したいのかなど方向性が定まります。

ソーシャルワーカーは様々な要素を多角的な視点を統合的にとらえつつ支援を行っています。研究ではそれと全く別の一逆といっても差し支えないほどベクトルでものごとをとらえなければならないのだということを講座で学ばせていただきました。

今田先生のお話の中で「研究らしいことをしようとしている」のではないかのでないかというお話がありました。どこか研究は特別なことをしなければならない、という思い込みがあったように思います。

研究をすることがソーシャルワーカーにとって特別なことではなく、より身近に感じられるような講座でした。

国際医療福祉大学特任教授今田先生、研修に携わったスタッフの皆様素晴らしい研修をありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。



石川さん、市川さん ありがとうございます。

講座Ⅰ終了後に参加者からいただいたご感想、ご意見は今後のセミナー運営に活かしてまいります。あらためて、今田先生、ご参加の皆様にご感謝申し上げます。

日本医療社会福祉学会事務局